

カットバン

2025. 12. 5

暑かったとは思っていても、11月になると、急に寒くなる。すると、毎年、同じ症状が出る。あかぎれである。指先のあかぎれである。右手の親指と人差し指が多い。よく使う右手、それもよく使う指である。指先に亀裂が生じて痛みがなければ何ということはない。ところが、いつも痛みが生じる。水が強くしみる。日常生活に支障が生じる。

では、どうしているのか。まずは、夜、寝る前、指先にオロナインH軟膏を塗る。よくはわからないが、オロナインは万能薬である。あの茶色の箱への信頼度は高い。だが、手がベタベタになる。布団に入る。しばしの間、手は布団の外に出しておく。

オロナインH軟膏だけでは、なかなか改善しないことがある。痛みがひどくなっていく。このようなときは、カットバンの登場となる。これを指先に貼ってしまうと、作業がしづらくなる。だが、痛みはだいぶ和らぐ。

ここで考える。カットバンとは言っているが、本物のカットバンを見ることは滅多にない。この前、久しぶりにカットバンを見た。幼稚園の救急コーナーにあった。きっと地方によっては、カットバンと言っても通じない。このようなことはよくある。

カットバンは、絆創膏の地域による呼び名の一つである。特に、東北地方、中国・四国地方、九州・沖縄地方で多く使われている。カットバンの本社はどこにあるのか。佐賀県である。知らなかった。

他の呼び名を挙げてみる。バンドエイドは都市部を中心に広く使われている。ここらへんでも、カットバンよりもバンドエイドのほうがよく見るような気がする。サビオは、北海道で使われている。リバテープは、九州地方で多く使われている。キズバンは、富山県限定である。

絆創膏の呼び名で、出身地が、ある程度特定されてしまうということになる。東京に行ったら、カットバンは通じない。バンドエイドと言うことにしよう。

電子オルガンのことをエレクトーン、化学調味料のことを味の素、食品用ラップのことをサランラップという人がいるのも同じ現象であろう。セロテープもそうである。他にも、まだまだある。食べ物では、きんつばと大判焼きなどもそうである。

今年も、あかぎれには悩まされそうである。すでにカットバンのお世話になっている。今回は、本物のカットバンである。あかぎれ対策としては、皮膚の乾燥を防ぐことが一番のようである。やはり、オロナインH軟膏のお世話になるしかあるまい。あのベタベタ感が、いかにも効いてそうで、頼りになる存在である。